

2018年度支援報告

支援総額：2,749,961円

ネパール

「NPO 法人ベルダレルネーヨ」
カンチャンジャンガ 紅茶農園周辺の
子どもたちへの
高等教育支援

■800,000円

*裏面に関連記事掲載



カンボジア

「認定 NPO 法人幼い難民を考える会」
村の幼稚園
地域での継続支援

■630,521円

(店頭募金を含む)
*裏面に関連記事掲載



「認定 NPO 法人シェア
=国際保健協力市民の会」

カンボジア国における
こどもの栄養改善
1000日アプローチ
プロジェクト

■300,000円



ミャンマー

「公益社団法人
シャンティ
国際ボランティア会」
難民キャンプの
図書館事業

■100,000円



写真提供：シャンティ

- おかげさまで、今年度も海外及び国内への支援を実行することが出来ました。
- 寄付者の皆様、お客様、ボランティアの皆様等々、おおぜいの方々のご協力に心より感謝申し上げます。

東日本大震災復興支援

「NPO 法人生活支援プロジェクト K」
気仙沼・地域住民の生活支援、
地域コミュニティ形成の促進プロジェクト

■594,192円



防潮堤の建設が進む気仙沼湾



生活支援プロジェクト K
事務局の大森さん(中央)と
西城さん



2019/3/2

*裏面に関連記事掲載

8名でコンテナ事務所
を訪問

「NPO 法人ココロとカラダを育てる
ハッピープロジェクト」
福島県からの自主避難者住み替え基金

■100,000円

平成30年7月豪雨被災者支援

「公益社団法人
シャンティ国際ボランティア会」
愛媛県西予市での被災者支援

■225,248円 (店頭募金を含む)

- ★店頭で回収した下記物品は「幼い難民を考える会」に寄付いたしました。
- ・書き損じはがき：912枚
- ・未使用切手：8,414円相当分

カンボジア * * * * *

スタティツアーに行ってきました

支援先の「幼い難民を考える会」主催のツアー(2018/12/10~14)に参加し、カンボジアの“村の幼稚園”を訪ね子どもたちに会ってきました。

首都プノンペンに比べ、村の子どもたちの暮らしは恵まれていないかもしれませんが、子どもたちの輝く透き通った目に私達は大きな力をもらいました。

また、縫製工場で働く母親に代わり孫の面倒を見ているお祖母さんから村の幼稚園に通うお孫さんの様子を聞くこともでき



〈ご飯とスープの簡単な給食〉

「読み書きを覚え、家に帰ると習った歌を歌い幼稚園での出来事を話してくれる事が嬉しい」「何より昼間面倒をみて頂きとても安心」と言われたことが心に残りました。

(WE21 ジャパン厚木支援チーム:磯崎)

震災から8年目の気仙沼を訪ねて

(2019/3/2~3 参加者:8名)

■いたる所にある重機、高く延長された防潮堤、土地のかさ上げ、三陸道建設、大型水産施設建設等、2020年を目指した国の「復興・創生事業」が続く中、被災した方々の多くが仮設住宅から災害公営住宅等に移り、課題はあるものの新たな生活を始めていました。



かさ上げが進む市内



完成した災害復興住宅



ムラカミの皆さんと



遺構となった気仙沼向洋高校(左側)と伝承館

■訪問先の「NPO法人生活支援プロジェクトK」では、最近「少子高齢化」「子育て不安」などの課題もみえて来たため、被災者支援の継続と共に、子どもや母親たちに「いのち」の大切さを伝える講座開催など、次世代を見据えた取り組みも計画中との報告がありました。

■また、WEショップで販売中の海産物の仕入先(有)ムラカミも訪問し、昨年4月完成の新社屋を見学。被災当日のお話を伺いながら、壮絶だった避難生活に思いを巡らしました。

■その後、震災遺構となった「気仙沼向洋高校」旧校舎も見学。隣接する伝承館では、当日の津波の映像や、避難所となった中学校で行われた卒業式で答辞を読む男子の映像を涙と共に見せて頂きました。被災地の人々を忘れず、伝えていきたいと強く思いました。

(WE21ジャパン厚木代表:小川)

WEショップ 厚木1号店 ☎ 046 (296) 2555

厚木市中町 3-18-5 Email:we21atsugi@mou.ne.jp

■ 営業日:月~土 (4月~9月:10:00~17:00)

(10月~3月:10:00~16:30)

■ 定休日:日曜日・祝日



WE講座を開催しました

ネパールの高等教育支援について

紅茶やカレー等でおなじみのフェアトレード団体「ネパリ・バザーロ」代表の高橋百合香さん(ベルダレルネーヨ事務局)をお招きし、2月18日、ネパールでの活動報告会を開催しました。若者への教育支援を始めて10年余り。

奨学金を得た若者たちは貧困を克服するために必死で勉強し、医療や農業などの専門職に就くなど自立への道を歩みはじめています。

昨年末に現地を訪れた際には、温かなお茶の歓迎を受け、「お給料の一部で学用品を買ってあげたい」と後輩を気遣うヘマさん(表面写真の女性がヘマさん)の成長にとっても感激したそうです。



未だ厳しい身分制度が残るネパールで、特に女性が仕事につく事は大変難しいことですが、厚木からの支援が遠くネパールの若者たちの希望に繋がっていることを確認できた報告会となりました。

〈最貧民族の女性(右から2人目)も

奨学金を受けたいとチャレンジしています〉